

平成28年度第2回山形県図書館協議会議事概要

- 1 日時 平成29年3月29日（水）14:00～16:10
- 2 場所 「遊学館」3階 第2研修室
- 3 協議（委員の発言、質疑等の概要）
（1）平成28年度県立図書館の利用拡大の取組みについて

〔佐藤委員〕

リニューアル後の横断検索はたいへん使いやすくなっている。ホームページに、色々な要望を取り入れてもらったおかげで内容は多角的になった。県内の公立図書館にとって明確な方向性を示してもらったと思う。

〔加藤委員〕

- ① ホームページは見やすく使いやすくなった。写真が効果的だ。またティーンズ向けの情報も工夫が凝らされている。なお、お薦め本の紹介、人気の本、お話し会の日程などがあればなお良い。検討してほしい。
- ② 各種企画事業でアンケートを取って一番反響の良いものが「読み聞かせグループ交流・実演会」とのことだが、参加した人が褒め合うだけでは進歩にはならない。参加した関係者から良かった点・気になった点両面のコメントを聞き出し、それを関係者が咀嚼した後、質の高いものを皆で見て共有して、進歩に繋がる。県内全体で取り組むことが必要だ。

（委員長） 読み聞かせの交流会には期待感が込められている。色々な方の貴重な意見に耳を傾けて、各団体と連携を図ってほしい。

〔松田委員〕

- ① 第5回本の森講座には大勢の方が参加したとのことだが、参加者層の特色は何か。
（事務局） 高齢者が圧倒的だろうと思っていたが、女性が意外に多かった。若い男性も少なからず参加しており、歴史への関心が各層に広がっていることを実感した。
- ② 第5回本の森講座の集客で決め手になったものは何か。
（事務局） 様々なメディアや広報媒体に開催情報の掲載を依頼し、多くの方の目にとまったことが大きい。守春本（もりはるぼん）を講座に取り入れたことも集客アップに繋がったと思う。

〔新藤委員〕

- ① 県立図書館では近年、色々な催し物をやっていて、とても賑やかになっているとの印象を強くしている。
- ② 「読み聞かせグループ交流会」は毎年、行っていくというのが前提か。
（事務局） 継続していきたい。

〔加藤委員〕

- ① 県内各地の読み聞かせグループを回って指導しているが、各グループで一番の問題は高

齢化だ。市町村でグループの育成を行っているが、結果が出ていない。各教育事務所で持回り開催の「いのちの学習『読育』フェスティバル」がなくなってしまったが、県立図書館にはきちんと支援を行ってほしい。

(事務局) 県立図書館では講師を連れてきてレベルアップを図っていた歴史がある。読み聞かせグループ活動には様々な課題が見られるので、我々は課題解決に向けて先ず行動を起こそうと思い立った。裾野を広げたいとも考えており、じっくり取り組んでまいりたい。

[新藤委員]

- ① 高齢者向けの読み聞かせは珍しい取組みだ。実践者向けの研修は、例えば県外の実践者を呼んで実演・勉強会を開催してもいいのではないかな。
- ② マルチメディア DAISY の取組みは秀逸で意義深いことだ。私のゼミ生が各図書館の障害者対応に関するアンケート調査を行ったが、東北ではまだまだ意識が低い。障害者からのアクションを待っていてはだめだ。LD、視覚障害者等への発信をどのようにしていくのか。

(事務局) 大型活字本、青い鳥文庫、識字障害対応のスケールを準備しているが、伊藤忠記念財団との繋がりが出来たので、様々な手段を活用して効果的にPRしていきたい。

[鈴木委員]

- ① パスファインダーは館内でしか見られないのか。

(事務局) 今年度は6つのテーマを追加して36種類作成しているが、県立図書館のホームページでも閲覧・プリント出来る。なお、館内配置のパスファインダーは最近1年間で1,700枚ほどの利用があるが、人気度の第一位は最上義光で、郷土関係の人气が高くなっている。

[新藤委員]

- ① 平成28年度の図書館大賞はジャンルが多岐にわたっていた。小テーマも設けてもらえればなお良いのではないかな。各図書館との連携がカギになるが、双方の関係性は如何。

(事務局) 各図書館を通していただいた様々な推薦コメントは展示の際のポップに貼付するなど様々な人の思いを伝えるようにしている。なお、様々なコメント集は各図書館に送付して活用していただいている。

- ② 歴史だけで、テーマを決めて企画展示や講座を開設してほしい。

(2) 平成29年度県立図書館の運営方針について

[鈴木委員]

- ① 資料整備の元となる予算について、その動向は如何。

(事務局) 平成24年度に25,000千円あったのが、徐々に下がって29年度は22,000千円と厳しい状況にある。

- ② 県立図書館にとって良い資料を整備していくことは本丸だ。是非、予算確保に取り組んでほしい。

(事務局) 29年度は強い決意をもって予算要求に臨んだが増額には至らなかった。通常の枠では難しいと思っており、県教育委員会ひいては県の財政当局の大きな判断をもって理解してもらえよう取り組んでいく。

[佐藤委員]

- ① 酒田駅前ビル再開発の一環で、酒田市立図書館の整備計画は大詰めを迎えている。市民にアンケートをとって「居心地の良さ」「ネット・Wi-Fiの充実」などを重視していくことになるが、県立・市立と違いはあるものの県立図書館にとって環境整備の要諦は何か。
- (事務局) 県立図書館としては資料の充実を図ることが第一だ。

[松田委員]

- ① (3) 県民ニーズ実現のための積極的支援のうち「①地域の課題解決や活性化への支援」には自分の人生・生きがいに関することが含まれるが、これまで支援の手が差し伸べられなかったので、長寿社会となった今、高齢者が在宅で快適に過ごせる仕組みづくりが必要になっており、高齢者の学びの支援を項目に加えてほしい。

具体的な活動イメージとして、大学で生涯学習の講座が目白押しになっているが参加者は図書館で調べ物をして学習成果を深めるわけだから、その成果を某かに還元できれば発表者だけでなく受益者も様々な刺激を受ける。大学でなくても生涯学習センターのイベントでもいい。県立図書館は種々の文化活動と協働して、これら生きがい対策の支援に努めてほしい。

(事務局) 取り組んでいきたい。

- ② 公共図書館が民間の書店を圧迫しているという話があるが、電子書籍などネット上のデジタル化された本がライバルであるということを考えれば、書店などとも協力していけるのではないかと。

(事務局) 公共図書館と書店との関係に関する部分で回答したい。県立図書館の数多くの企画展示のうち県内出版物展の反響が大きかった。1年間に県出身者が出した本、県内に関する本、県内で出版された本を一堂に集めた展示だが、「出版した本を展示してくれてありがとう」と感謝の声が多数寄せられている。こうした県内出版文化を守り、振興することは図書館と書店とが連携して行えることだと思う。

また、一書店のPRは行政の側として難しい面があるが、事業協同組合としての書店商業組合であれば、読書週間の企画などの際には書店と図書館が双方向でPRするなど協力できるのではないかと考える。そうした中で、県民の読書を促進したり、県内の出版文化を振興出来ればと思っている。

[新藤委員]

- ① 司書資格を有する職員の勤務実態と、今後の職員採用計画は如何。

(事務局) カウンターの職員は嘱託司書職員18名から成っているが、18名全てが司書資格を有する。

一方、職員で司書資格を有するのは現在4名。人事当局に司書資格のある職員を配置してくれとお願いしている。なお、29年度の人事異動があり、司書資格のある職員が異動したが新たに転入する職員が資格を持っており実数は変わらない。

なお、正規職員の司書職の採用計画はない。

- ② 和装本などの古文書をデジタル化しているようだが、その利用方法について教えてほしい。

(事務局) 貴重資料については、保存継承の視点とともに、利用者への活用の視点という2つの視点を踏まえて対応している。

デジタル化した貴重資料はホームページで閲覧できるようにしているが、研究者が利用する場合は、出典を明記してもらうように取り扱っている。

また、貴重資料は、一義的にはデジタル化資料を活用していただくことになるが、研究内容によっては、原本を見たいという研究者もいるので、原本でないと研究に差し障りがある場合は別途対応することになっている。

なお、現状を踏まえつつ、今後、その取扱を整理していきたいと考えている。

[加藤委員]

- ① 県内各地を回って、初めて母親になった方への絵本教育を独自に行っている。すぐスマホを手にしがちな若い母親を前に、紙媒体で子どもに読み聞かせをすることの意義を説きながら、丁寧に粘り強く進めているが、組織づくりや人づくりの問題に直面し、取組みを継続することの難しさを感じている。

(事務局) 「読育」を所掌するところは生涯学習振興室になるが、支援をお願いしたいと接触しても早期に理解を得ることは難しいのではないかと。県立図書館で何が出来るのか、考えてみたい。

4 報告（委員の発言、質疑等の概要）

（1）県立図書館活性化対策事業について

[鈴木委員]

- ① 開架スペースの拡大は前から検討されているが、先ほどの説明報告では検討状況が全く分からない。先が見えないため大いに違和感がある。この先の流れとしてはどうなるのか教えてほしい。

(事務局) 基本設計は大詰めの段階にきているようだ。ある程度基本設計の設計内容が固まれば委員の皆さんに示すことが出来るだろうが、今はその時期ではない。本館が話をできる立場にはないことを理解願いたい。

なお、設計協議は月2回のペースで関係者間での協議を行っており、本館としても現場の意見を言わせてもらっているが、全てを聞いてもらっているところではない。